

◆企画名	KU サポーターズ夏季自主研修合宿
日程	平成 26 年 9 月 12 日 (金) ~ 9 月 14 日 (日)
場所	高槻キャンパス 高岳館
参加者数	19 名 (ピア・サポータ 13 名、学生支援室 TA2 名、職員 2 名、卒業生 2 名)
目的	

KU サポーターズ春学期の活動を振り返り、秋学期の活動計画・活動指針の再検討を行う。また、ほっこり相談室における相談対応について、そして相談室の改善についてメンバー全員で話し合う場をもつ。また、次世代メンバーへの事業内容の引き継ぎ及び全メンバーのスキルアップを図ることを目的とする。

内 容

春学期の活動内容の振り返りと秋学期からの活動に関するミーティング、メンバーのスキルアップを図るためのワークや親睦やリフレッシュを目的としたボディワーク、レクリエーション等を行った。

- ・秋学期から導入するクラブマップの内容を共有及び協議し、最終確認を行った。
- ・新役員の紹介を行い、秋学期以降の活動や活動の方向性等について協議を行った。
- ・マネジメントブックに関する説明と実際に事業計画書を作成するワークを行った。
- ・新しく活動に加わったメンバーも多数参加していたため、KU サポーターズに関する知識をクイズ形式で楽しみながら学ぶワークを行った。
- ・鶴飼先生 (関西大学学生相談室相談員) に講師をお願いし「実践を通して傾聴を身近に感じてもらう」ことを目的としたワークを行った。
- ・水鉄砲を用いたゲーム、グループ毎に協力してひとつの絵画を作り上げるボディワークを行った。

効 果

3 日間を共に過ごし、普段なかなか話し合えないような議題についてもじっくりと時間をかけて協議することで、メンバーひとりひとりの自覚と責任感の養成に繋がったと感じる。また、普段なかなか交流する機会の少ない教職員とも時間を共有することで、今までよりもさらに身近な存在に感じるようになった。

改 善 点

- ・合宿の準備 (印刷物や必要事項の確認等) を前役員に頼ってしまっていた部分があった。
- ・会議が長引き、当初予定していた議題を後回しにすることとなった。
- ・リハーサルを実施し、実際にどのくらいの時間を要するのか確認すべきであった。
- ・ミーティングにおける進行側の打ち合わせや準備不足が一部あった。
- ・ワークの一部に費用が生じ、担当者が負担する形となってしまった。
- ・時間配分や企画進行の計画段階で、もっと担当者同士で内容を協議すべきであった。
- ・事前準備を 2 年次生にうまく引き継げなかった。

感 想

- ・今回の合宿の大きな目的の一つであった、次世代への引き継ぎが達成できた。
- ・マネジメントブックは堅苦しくて読みにくい内容だが、パワーポイントを使い、わかりやすく説明できたと思う。
- ・事業計画書を実際に作成するワークでは、とっつきにくいイメージのあった事業計画書を、少し身近に感じてもらえたと思う。
- ・引き継ぎの目的があったため、勉強会のようなワークが多かったが、ボディワークで心身ともにリフレッシュできたので、全体的にメリハリのある合宿ができたと思う。